

令和8年度 事業計画書

自 令和8年4月 1日

至 令和9年3月31日

誓 願

人よ醒めよ醒めて愛に帰れ
愛なき人生は暗黒なり

共に祈りつつ

すべての人と親しめ

わが住む郷に

一人の争う者もなきまでに

人よ起てよ起ちて汗に帰れ

汗なき社会は墮落なり

共に誇りつつ

すべての人と働け

わが住む里に

一人の怠る者もなきまでに

SYD 活動と SDG s

SYD 活動のほとんどが SDG s の目標達成に通ずる

🌱 幸せの種まき 献金/フィリピン支援・海外支援/震災ボランティア



🌱 自然体験キャンプ/家庭共育セミナー/各種講習会



十伊勢講習会

11 住み続けられるまちづくりを



令和8年度 基本方針（案）

次の10年を見据え“幸せの種まき運動”を
継続するとともに事業の充実と組織の再構築を図る

修養団は令和8年（2026年）2月11日に創立120周年を迎えました。

明治、大正、昭和、平成、令和の120年の間、修養団は創設者蓮沼門三初代主幹が願った「総親和・総努力・総幸福」の明るい世界の実現を目指し、愛と汗の精神を基本とし、公益事業の実行と共に各種運動を展開してきました。

創立90周年を機に、「こんにちは！」という“ふれあいの種”、「どうぞ！」という“思いやりの種”、「ありがとう！」という“よろこびの種”を一粒でも多くまいていこうという“幸せの種まき運動”を推進してきました。

令和8年度は、引き続き“幸せの種まき運動”の実践・伸展を図り、主要事業ごとに次の事項を重点として取り組みます。

1. 青少年事業：自然体験活動及び社会奉仕体験活動の充実を図るとともに青年リーダーの育成を強化する。
2. 講習講演事業：今の社会や企業から求められる内容に対応し、従来の方式に捉われず講習講演の事業の内容の充実を図るとともに、伊勢青少年研修センターの事業の実施体制を再構築する。
3. 社会活動事業：全国のクラブ・連合会が実施する講演会やボランティア活動等を支援し、活性化を図るとともに家庭《共育》事業を充実する。
4. 国際交流事業：フィリピンのボランティア活動及び支援事業を継続するとともに、拡充のための新たな仕組みを作る。また、ブラジル連合会との連携を強化する。

このため、全国の連合会・クラブをはじめ会員、参加者の皆さんと一層の対話を行い、事業内容の見直し・充実を図るとともに、組織の再構築に取り組みます。

I. 青少年活動

※子どもゆめ基金は申請中です。

日本の将来を担い未来を築く青少年が、健康な身体を養い豊かな感性と高い徳性を磨き、有為な青年に成長することを目的に、基本理念である“愛と汗の精神”に基づいた本団の活動と一致するSDGsの取組みに添って、自然体験・社会奉仕体験を中心とした青少年健全育成活動の充実を図る。愛と汗の実践活動として、フィリピン・ゴミ山などの貧困の中で暮らす子どもたちへの支援活動を継続して展開する。

1. 子ども自然体験活動

“愛と汗の精神”に基づいた子ども自然体験キャンプを全国的に開催し、大自然の中で障がい児を含む異年齢の仲間とともに野営による共同生活を通して、様々な課題や困難を乗り越え、自主性、協調性、感受性等を育てるなど、次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

(1) 夏期子ども自然体験キャンプ

ア. 「子ども自然体験キャンプ」《文部科学省後援・子どもゆめ基金助成活動》

| | |
|-------|---|
| 期 日 | 8月～10月 <各2泊3日～3泊4日> |
| 開催数 | 5会場（道南・桧原湖畔・瀬戸内海・鹿児島・沖縄） *道南は3～5名、桧原湖畔は5～10名、沖縄は3～5名の障がい児を募集（招待） |
| スタッフ等 | 各会場スタッフ5～20名、リーダー15～25名 |
| 対 象 | 小学1年生～中学3年生の児童・生徒 |
| 募集人員 | 各30～70名 |

イ. 連合会等組織共催「子ども自然体験キャンプ」

| | |
|-------|-------------------------|
| 期 日 | 7月下旬～8月 <各2泊3日～3泊4日> |
| 開催数 | 3会場（友愛・広島・北部九州） |
| スタッフ等 | 各会場スタッフ8～10名、リーダー15～25名 |
| 対 象 | 小学1年生～中学3年生の児童・生徒 |
| 募集人員 | 各30～60名 |

ウ. キャンプ事前調査

| | |
|------|-------------------|
| 期 日 | 6～7月 <各1泊2日～2泊3日> |
| 開催数 | 5会場 |
| 派遣講師 | 各1～2名 |

エ. 印刷物の作成

① 「子ども自然体験キャンプ」リーフレットの作成

| | |
|-----|------------|
| 部 数 | 8,000部 |
| 体 裁 | A4版6頁、4色刷り |

② 「子ども自然体験キャンプ」報告書の作成

| | |
|-----|------|
| 部 数 | 700部 |
|-----|------|

体 裁 A4版、72頁

(2) 子どもわくわく自然体験キャンプ《文部科学省後援・子どもゆめ基金助成活動》

経済的に厳しい状況や様々な困難により体験活動に接する機会が少ない子どもたちを招待し、大自然の中で異年齢の仲間とともに野営による共同生活を行う。様々な課題や困難を乗り越え、自主性、協調性、感受性等を育てるなど、次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

期 日 9月19日(土)～22日(火・祝) <3泊4日>
会 場 ばんだいふれあいぴあ(福島県)
スタッフ等 炊事員2名、SYD職員3名、リーダー18名
対 象 小学1年生～中学3年生の児童・生徒
募集人数 40名

(3) 春秋子ども自然体験キャンプ

ア. 子ども自然体験春キャンプ

期 日 5月3日(日)～5日(火・祝) <2泊3日>
会 場 ばんだいふれあいぴあ(福島県)
スタッフ等 SYD職員3名、リーダー15名
対 象 小学1年生～中学3年生の児童・生徒
募集人員 25名

イ. 子ども自然体験秋キャンプ

期 日 11月21日(土)～23日(月・祝) <2泊3日>
会 場 ばんだいふれあいぴあ(福島県)
スタッフ等 SYD職員3名、リーダー15名
対 象 小学1年生～中学3年生の児童・生徒
募集人員 25名

(4) 冬期子ども自然体験キャンプ

ア. 子ども自然体験スキーキャンプ

開催数 2回<各4泊5日>
①12月26日(土)～30日(水)
②令和9年3月26日(金)～30日(火)
会 場 ばんだいふれあいぴあ、裏磐梯スキー場・猫魔スキー場等(福島県)
スタッフ等 各回スキー指導員2名、炊事員2名、SYD職員3名、
リーダー18名
対 象 小学1年生～中学3年生の児童・生徒
募集人員 40名

イ. 子ども自然体験スキーキャンプ リーダー研修会

開催数 2回<各2泊3日>
①12月24日(木)～26日(土)
②令和9年3月24日(水)～26日(金)
会 場 ばんだいふれあいぴあ、裏磐梯スキー場・猫魔スキー場等(福島県)
スタッフ 2名

募集人員 各18名

ウ. 報告書の作成

部 数 200部

体 裁 A4版、36頁、カラー

(5) 子ども週末体験活動

週末や連休などを利用して子どもたちが集い、交流・体験活動を行う事業。子どもたちの自主性や協調性、コミュニケーション能力などを培い、チームやグループでの活動を通じて達成感やお互いの信頼を深めるなど心豊かな人間性を育むことを目的に開催。

リーダー研修会は、自然体験活動や社会奉仕体験活動を実践している高校生・大学生等の青年が集い、体験活動やその展開方法について講演、協議で知識や技術を習得し、実際の活動を通して自主性・協調性や相互のチームワークの構築を図る。

ア. WAKU×2ボランティアリーダー研修会

開催数 全国21会場（内、キャンプ11会場・ひろば10会場）

期間 通年 <各1日～1泊2日>

イ. 子どもWAKU×2ひろば

開催数 全国15会場（内、2会場が《子どもゆめ基金助成活動》）

期間 通年 <各1日～2泊3日>

(6) ばんだいふれあいぴあ整備

開催数 2回<各2泊3日>①6月12日（金）～14日（日）

②10月23日（金）～25日（日）

スタッフ 各3名

参加者 各5～10名（関東圏・福島県の高校生、大学生等の青年）

(7) 夏期少年少女合宿講習会（青年会議所等との伊勢青少年研修センター共催事業）

開催数 3回（7～8月）<各2泊3日>

会場 伊勢青少年研修センター（三重県）

対象 小学生

定員 各60～100名

共催団体 （一社）伊勢青年会議所、（公社）岸和田青年会議所、教育再生いばらき

2. 子どもボランティア推進活動

“愛と汗の精神”に根ざした様々なボランティア活動を実践することにより、人のため、社会のために行動することの素晴らしさや真の喜びを体感する。お互いに理解し合い、分かち合い、豊かな感性を磨き、思いやる心や心豊かな人間形成に寄与する。

(1) 幸せの種まきキャンペーン《文部科学省後援》

地域、学校（生徒会・ボランティア部）、PTA等と連携を図り、これまで実践しているフィリピン等での支援活動を紹介する。ストリートチルドレンやスカベンジャーなど「貧困と共に生きる子どもたち」の現状を理解することにより、ボランティア精神を涵養し、他者への思いやり、命の大切さ、親や周りの人への感謝など、青少年の豊かな心

を育むことを目的として全国的に開催する。

ア. 幸せの種まきキャンペーン「出前講座・課外授業」

期 日 通年
開 催 数 全国30会場（オンライン含む）
実施組織 学校（生徒会、ボランティア部・JRC等のクラブ、学童保育等）、市町村教育委員会・公民館、PTA・子ども会など各種団体・グループ、SYD連合会等組織
派遣講師 各2～3名（SYD講師及びフィリピンでのボランティア経験者）
実施概要 ・参加者 各会場15名以上
・プログラム 90分（標準）ほか

イ. パンフレットの作成・配布

部 数 3,000部
体 裁 A4版、8頁、4色刷り
配布先 3,000ヵ所

(2) 青年ボランティアゼミナール

開 催 数 4回 <各2時間>
講 師 各1名（国内外のボランティア経験者等に委嘱）
会 場 オンライン（Zoom）、SYD会議室（オンラインを含む）
対 象 全国の青年リーダー
募集人員 各25名程

3. SYD指導者の養成

自然体験や社会奉仕体験などのさまざまな体験活動を実践し、自ら活動の楽しみや喜びを体得するとともに、子どもたちを安全に導きながら体験活動を積極的に推進するための知識や技能を習得し、“愛と汗の精神”を日常的に実践するSYD指導者の養成に努める。

(1) ボランティア・アクション

自然体験・福祉ボランティア活動の心構えや基本的技術を習得し、福祉施設や公共施設等での社会奉仕活動を実践します。社会奉仕体験活動の楽しみや喜びを体得するとともに、ボランティア精神を涵養し、地域で活躍する指導者としての資質の向上を図ることを目的に開催。

開 催 数 6月～令和9年2月<各1泊2日>
開 催 数 2会場（広島・沖縄）
スタッフ等 外部講師1名、SYDスタッフ2名
対 象 地域（全国）の中学生・高校生・大学生等の青年等
募集人員 各15名

※報告書の作成

上記の事業等の報告書を作成し、事業の成果を広く一般に広報する。

部数 200部
体裁 A4版、60頁

4. 青年組織育成

“愛と汗の精神”に基づいた、自然体験・社会奉仕体験を年間を通して実践する青年部組織の育成・充実に努める。

(1) 青少年活動（キャンプ）担当者会議〈オンライン〉の開催

期 日 4月19日（日）〈3時間〉
会 場 オンライン（Zoomにて）
スタッフ 5名
参加者 15名

(2) SYD講師の派遣と青年組織活動への助成

青年部組織の強化・拡大と活動の充実・活性化を図るため、SYD講師の派遣と組織と組織活動への助成を行う。

ア. SYD講師の派遣

回 数 5～6回
期 間 各1日～3泊4日

イ. 青年組織活動への助成

自然体験や週末体験、社会奉仕体験を実施する青年組織に対して、活動規模や内容によって助成をする。

5. 関係機関・団体との協力

青少年教育及び社会教育の関係機関及び諸団体との連携を図り協力し合い、青少年の健全育成ならびに社会教育に寄与する活動を展開する。

II. 国際交流

1. フィリピンとの交流事業

(1) 青年ボランティア・アクション in フィリピン（第23回）《文部科学省後援》

フィリピンケソン市パヤタスのゴミ山で働く子どもたち（スカベンジャー）やマニラ市のストリートチルドレン（路上で生活する子どもたち）を訪問し、ボランティア活動・交流活動・支援活動の実践をとおして友好と相互理解を促進する。このことにより、SDGsの目標である「貧困」や「飢餓」などについて深く学び、他者への思いやりや命の尊さ、またより良い社会のために行動する精神を培うなど、自ら生きる意味を模索し、国際協力の精神を涵養し、学校や地域で活動する青少年指導者を育成する。

期 日 8月18日（火）～24日（月） 〈6泊7日〉
訪 問 地 マニラ市、ケソン市 等
スタッフ 2名
参加者 青少年23名（満15歳から25歳未満の青少年）
主な活動 マニラ市内のストリートチルドレンやパヤタスのスカベンジャー（ゴミ捨て場で働く子どもたち）とのふれあい活動や支援品や食事の提供などのボランティア活動等を行う。

(2) 事前調査

期 日 7月 〈4泊5日〉
訪 問 地 マニラ市、ケソン市 等
派遣講師 1名

(3) 創立120周年記念「SYDハウスの設置」

2001年から20年以上にわたりフィリピンのごみ山の子どもたちへの教育支援や「青少年ボランティア・アクションinフィリピン」継続してきた。創立120周年を機にボランティア活動の継続と支援（学習サポートや配食サービス等）を強化するためのサポート体制を具体化する。

2. ブラジルとの指導者交流事業

(1) 指導者の招聘

ブラジル修養団の推薦する指導者及び青年リーダーを招聘し、伊勢講習会や子ども自然体験キャンプなどの参加・研修により、ブラジルで開催される少年少女講習会等で活躍する青少年指導者の養成を図る。

ア. 青年指導者の養成

期 日 7月中旬～8月上旬 〈約25日間〉
招 聘 者 青年リーダー2名（ブラジル修養団推薦者）

イ. 講師の養成

期 日 令和9年1月下旬～2月中旬 〈約21日間〉
派 遣 者 1名（ブラジル修養団推薦者）

(2) 講師の派遣

ブラジル修養団の要請に応じて指導者を派遣し、日伯文化協会等と連携しながら開催される少年少女講習会や教育講演会及びブラジル修養団青年指導者研修会等に従事する。

期 日 令和9年1月上旬～2月中旬 〈約35日間〉
派 遣 者 SYD講師1名

3. 関係機関・団体主催事業への派遣・受入協力

内閣府、国立青少年教育振興機構等が実施する青少年や指導者を対象とした国際交流派遣事業に積極的に参加者の推薦を行うとともに、国内における各種国際交流活動への指導者・青少年の参加を促進する。

Ⅲ. 講習会・講演活動

企業・団体の社員等または個人を対象に、“愛と汗”の精神を基本にした健全な価値観を形成し、より良い人格を研くことを目的に開催する。また、受託講習会・セミナーや講演会に講師を派遣し、“愛と汗”の精神の普及に努める。

また、参加者の疾病および負傷へ配慮し、安全対策に万全を期して実施する。

1. 伊勢講習会

(1) みがく講習会

期 日 4月～令和9年3月 <各3泊4日>
開 催 数 5回(4月、12月、令和9年1月、2月、3月)
定 員 各50名

(2) みがく特別講習会

期 日 令和9年2月～3月 <各1泊2日>
開 催 数 3回
定 員 各80～100名

(3) 特別講習会

ア. 神嘗祭特別講習会

期 日 10月15日(木)～17日(土) <2泊3日>
定 員 60～80名

(4) 受託講習会

ア. 2泊3日コース

開 催 数 1回(11月)
定 員 80～100名

イ. 1泊2日コース

開 催 数 9回(通年)
定 員 各30～80名

(5) 貸会場

開 催 数 10回(通年)
定 員 各30～50名

(6) 講演活動

一般企業・その他各種団体の依頼により講師を派遣する。

2. 関東・東北地区等講習会

(1) リフレッシュセミナー

中堅社員等を主対象として、ブラインドウォークや講話、水行等の体験を通じて新たな「気付き」をうながすことで心身をリフレッシュさせ、日々の生活に一層の活力を生むことを目的として開催する。

期 日 令和9年2月中旬 <2泊3日>
会 場 福島県下
対 象 18歳以上
定 員 30名

3. 受託セミナー

多様な企業の人材育成の要望に応える修養団ならではのセミナーを企画・実施し、広く“愛と汗”の精神の普及に努める。

実施予定回数：13回

(1) ブラインド・ウォークセミナー

“思いやりの心” “信じ合う心” “感謝の心” の三つの心を体感し、より温もりのある心豊かな人間関係を築くことを目的としたセミナー。

コース：半日、1日

(2) パート社員セミナー

スーパーマーケット等のパートタイム社員を対象に、職場の人間関係をより円滑にする心のあり方や対人関係スキルの向上を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

(3) 新入社員セミナー

学生から社会人への意識変革を図るとともに、“愛と汗” の人づくりをねらいとしたセミナー。

コース：半日、1日、1泊2日、2泊3日

(4) 一般社員セミナー

1社単独による研修や職場リーダーの育成を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

4. 青少年・社会教育団体等への講師派遣・斡旋

委嘱講師の充実を図り、青少年団体をはじめ学校、諸団体、企業に積極的に働きかけ、講習会・家庭教育講座や人生講座への講師派遣や、レクリエーション、キャンプ等のプログラムを企画立案し、指導者派遣の一層の拡大を図る。

IV. 家庭教育活動

1. 家庭《共育》ひろば

さまざまな家庭のあり方、幸せのあり方がある現代にあっても「“愛と汗” の理念」及び「共に育つ」という考えは、家庭教育において変わることのない根底といえる。このことを土台とし、“楽しい子育て” “幸せな家庭づくり” を目的として実施する。

(1) 家庭《共育》ひろば「ファミリーキャンプ」

自然豊かな環境のなかで野外炊事やキャンプファイヤー、レクリエーションなどを通じて、日頃感じられない自然の美しさや家族相互の新しい一面の発見を大切にしながら、保護者からまた子どもから互いに学び合い「共に育つよろこび」「互いに敬う心」「思いやりの心」の醸成を図る。さらに参加する家族間での情報共有を促進し、よりよい家族のあり方を模索するひとときとする。

開催時期 10月～11月

期 間 1泊2日

参加者 35名（ほか、青年リーダー5名程度）

講師 2名

(2) 体験型 家庭《共育》ひろばの斡旋及び仲介

子どもたちに健やかに心豊かに育てほしいと願う保護者、育児への悩みを抱える保護者、それらを支える地域の大人を主対象とした講演・ワークショップの実施を希望す

る組織等へ講師の斡旋、仲介を行う。

V. 会員組織活動

1. 「幸せの種まき運動」の推進

会員および会員組織と連携を図り、さらに諸団体に呼びかけて、“愛と汗”を基本理念に下記事業を展開し、「幸せの種まき運動」を推進するとともに、SDGsのゴールとして掲げられている「平和と公正」などへの貢献を目指す。

(1) “愛と汗” 幸せの種まきセミナー

「すべての人の幸せと、平和で豊かな社会の実現」を目指し、“愛と汗”を基本とした修養団の理念を学び、幸せの種まき運動を実践し広げることを目的に実施する。修養団連合会・クラブを基本の実施団体とし、研修会方式を用いて各地で開催するとともに、組織の要請によりボランティア活動なども取り入れる。また、会員組織の活性化や後継者育成、会員拡大を図る。

開催数 2会場（標準日程は10時～17時）
参加者 各30名程度
講師 各2名（本部講師、要望により外部講師）

(2) Zoomでオンライン “愛と汗” 幸せの種まき講演会

Zoomを活用したオンライン講座、または講演会を実施し、これまで実施が困難であった組織や新規参加者を募ることで、地域における組織活動の再活性化と運動推進を促す。本年度は修養団の会員を講師として招聘し、活動者目線からの講話を取り入れることにより修養団運動の活性化の機会とする。

開催数 2回（本部講師、地域で積極的に運動を展開する活動者）
期間 通年
定員 各50名
講師 各1名

(3) 第18回「チャリティー演芸会」 —ストリートチルドレン支援—

開催日 7月3日（金）
演者 立川らく次 ほか
会場 SYDホール

(4) 「チャリティーバザー（幸せの種まき祭り）」

—ストリートチルドレン・災害被災者支援—

開催日 11月
会場 SYDホール、1階広場など

(5) 第10回「東京ベルズ」チャリティーコンサート—ストリートチルドレン支援—

開催日 12月
会場 SYDホール

2. 会員組織活動への支援と会員加入促進

会員組織がそれぞれの地域や職域で社会貢献活動(幸せの種まき)をすすめるために、運動推進会議を開催するほか講師派遣などの支援を行い、会員加入促進を図る。

(1) 活動活性化のための講師派遣

各クラブ・連合会が実施する事業（総会等含む）に対し、要望に応じて講師を派遣する。各組織を定期的に訪問し小規模の研修会や講演会を行う。さらには電話やメールなどで連絡を取りながら組織の現状分析と諸問題解決を共に進め、活動の活性化を図る。

派遣回数 15回程度（随時）

(2) 活動助成金の支出

各クラブ・連合会が行う活動に助成金を交付し、組織活動の拡充と活性化を図る。

(3) 会員加入促進活動

ア. 本団主催セミナーおよび受託セミナー、キャンプ等の主催事業実施・開催に合わせ受講者に見本誌やチラシ（作成予定）を配布し、加入促進を図る。

イ. 各連合会・クラブを通じ、未会員および家庭《共育》ひろば、“愛と汗” 幸せの種まきセミナー等の事業参加者に対して加入促進を図る。

(4) 『SYDかわらばん<最新活動情報>』の発行・配布

毎月20日を目途に行っていた紙面発行・配布を中止し、ホームページでの活動報告、広報とする。紙面では表現できなかった報告等の内容の充実を図り、会員からのニーズに応えられるよう調査も進める。

VI. 幸せの種まき献金活動

1年をとおして募金活動を行い、フィリピンをはじめとする海外の経済的に恵まれない子どもたちや国内外の大災害の被災者、福祉施設等を支援し、「貧困」「飢餓」など、喫緊の諸問題解決を目指した諸活動を推進する。

1. 募金活動

会員や諸事業参加者のみならず、機関誌やホームページによる広報で広く募金を呼びかける等、積極的に募金活動を展開する。また、活動報告書やフィリピンの学資支援を受けている子どもたちを紹介するパンフレットを作成配布し、活動への理解者・協力者を広げる。

2. 支援活動

フィリピンの経済的に恵まれない子どもたちへの学資支援をはじめとする支援活動を継続するとともに、国内外の大災害被災者や福祉施設への支援も行う。支援先や支援方法については、「幸せの種まき献金」委員会で定期的に検討する。

VII. 出版・広報活動

1. 機関誌『向上』『愛』の発行

(1) 『向上』

自分を高めること、身近なところから“幸せの種”をまくことの大切さを実感し、行動に移すために役立つ記事を掲載する。各界著名人の随想、専門家による「より良く生きる」ことへのヒントや学びとなる内容のほか、修養団や会員組織による事業・活動を紹介し、広く興味を持ってもらえる誌面とする。

(2) 『愛』

温かな人間関係づくり、子育てや暮らし、心豊かに生きるための参考となる記事のほか、修養団の青少年事業参加者の体験談（感想）などを紹介して、特に子育て世帯や青少年に役立つ内容とする。

(3) 機関誌の積極的活用と広報

読者の高齢化等による発行部数の減少が予想される中、講習会受講者のみならず、「日々の力」および図書購入者、「幸せの種まき献金」支援者など、修養団活動に対して理解をいただいている方々に対し機関誌（バックナンバー）を送付し、購読への呼びかけを進める。合わせて読者のニーズを調査し発行方針を模索する。

2. 令和9年版「日々の力」の制作・販売

販売目標 8,500部（制作9,000部）

3. 教育図書の普及、販売

『自分を育てる－「蓮沼門三の言葉110を読む」』、『蓮沼門三の言葉110』、『人生のことば365日』などの人生書や教育図書等の販売に努める。

VIII. 施設運営事業

1. 伊勢青少年研修センター

- ・修養団の組織・会員が伊勢のセンターを利用していただけるように事業を運営する。
- ・事業の中心である主催講習会に重点を置き運営する。
- ・共催事業の講習会、研修会の事業を積極的に進める。
- ・貸会場として、施設の安全有効利用を図る。
- ・他団体との連携を広げ、事業をよりよく展開していく。
- ・館内の老朽化に対し、適切な安全対策を進める。
- ・各事業の広報を充実するために、広報コンテンツの開発及び作成を進める。
- ・各関係団体とのよき関係を構築していく。
- ・報道関係に適切な情報を伝え、新聞やメディアへの協力をより一層仰ぐ。

2. 修養団SYDビル・SYDホール

- ・テナントに対し、快適なオフィス環境を提供するよう適正管理に努める。
- ・セミナー、講演会や各種活動の拠点として一層の有効活用を図る。
- ・2階ホール及び16階会議室の利用を促進する。

3. ばんだいふれあいぴあ

- ・自然体験活動の拠点として、主催事業で利用するとともに諸団体の利用に供し、有効活用を努める。
- ・施設の整備を行い、利用環境の一層の向上を図る。

IX. 表彰等

1. 第21回SYDボランティア奨励賞

都道府県教育委員会、主要市町村教育委員会、キャンプ開催地や参加者のいる小・中学校、高校、大学を中心にSYDボランティア奨励賞・パンフレットを配布、応募を呼びかける。顕著な活動を顕彰することにより、ボランティア活動に対する意識

を高揚し、活動への参加を促して青少年の健全育成に寄与する。

(1) SYDボランティア奨励賞贈呈式

贈呈式 令和9年2月
会場 SYDホール

(2) 募集パンフレットの製作・配布

体裁 A4版、2頁、4色刷
部数 18,000部
配布先 18,000ヵ所

2. 令和8年度修養団功労者表彰

修養団運動の発展に寄与した功績顕著と認められる個人ならびに団体を顕彰する。

X. 諸会議の開催

1. 理事会

期日 5月・12月・令和9年3月（年3回）
会場 SYD会議室

2. 第16回評議員会

期日 6月
会場 SYD会議室

3. 後援会役員会

期日 7月
会場 SYD会議室